

「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」更新案についての地域説明会概要  
(豊ヶ丘)

開催日時 平成28年10月22日(土) 10:00~12:00

開催場所 豊ヶ丘地区市民ホール(豊ヶ丘複合施設) 第1会議室

参加者 29人(うち職員・議員7人)

【質疑・意見交換(概要)】 (○…参加者、⇒…市の回答)

○政策情報誌(vol.3)の「豊ヶ丘複合施設」の説明で、「一旦立ち止まり、大規模改修時期の前までに、市民の皆さんと一緒に考えていきます」と書かれているが、表現が曖昧で分かりにくい。「存続」と明記せずに、曖昧な表現になっているのは何か理由や不都合があるのか。

⇒市議会で豊ヶ丘複合施設の存続を求める陳情が採択された。豊ヶ丘複合施設は、大規模改修時期である平成34年度まで存続することになった。今後の施設のあり方については、引き続き市民の皆さんと対話する方向になった。

○政策情報誌(vol.3)では、「市民の皆さんと一緒に考えていきます」と書かれているが、何を一緒に考えるのか。「建物内の各施設についても、地域に必要な機能とその機能の確保等について検討していきます。」との表現になっているが、複合館として存続するのか。

⇒存続を前提としているが、機能は考えるべき時期に来ている。少子高齢化が進む中で、福祉の機能を施設に入れるか。必要な機能や、運営手法等も課題である。施設の検討にあたっては、地元住民で構成する建設協議会を発足してご意見をいただき、その後、運営協議会等でご意見をいただくことになると考えている。

○市民と一緒に考える上でのシステムはどのように考えているか。パブコメ・説明会だけでは不十分である。現状では、どの意見を採用するかを選択するのは市であり、市民と一緒に考えるという方向ではない。選択の権限が一方的なシステムは変えるべきである。

⇒検討にあたっては、地元の自治会の方、地域で活動している方、子どもや高齢者の視点等、多くの方から必要な機能等について意見をいただきたいと考えている。

○「大規模改修時期である平成34年度まで」と期限を切ったのは何故か。

⇒施設が老朽化して、30年位経過すると、部品の供給もなくなってくる。それらを考えて、施設の建設から30年位で施設をどうするかを見直すと効率的であると考えている。

○パルテノン多摩は年間約50万人が利用しているようには思えない。約80億円もかけて改修するのはおかしい。運営面でも無駄があるのではないか。例えば、改修費用を約40億円にして、地域図書館、児童館、老人福祉館等の施設を存続する決断をすることも必要ではないか。パルテノン多摩のようなホール機能は、近隣自治体にもある。

⇒パルテノン多摩の利用者数は、多摩市文化振興財団の実績報告による数値である。コンサート・イベント等への入場者数と、ホールの貸出、練習室、会議室の利用等を集計した数字である。改修費用は当初、施設劣化度調査の結果で約39.5億円の試算だった。その後、消費税増税、安全への配慮として広い天井は補強しなければならなくなったこ

と、だれでもトイレの設置、バリアフリー対応を行う試算をした。さらに、更なる価値の創造として、集客力を上げる改修を行うと、計約 80 億円になる。また、多摩中央公園やペDESTリアンデッキ等も改修し、多摩センター地区全体を活性化していきたい。市議会において、市民の声を聞くこと、無駄なものを削減して効果的に進めることという付帯決議がついた。見直すべきものは見直していきたい。

- 多摩センター駅前には三越の撤退をはじめ、お店が閉店して閑散としている。改修して多摩センターに人が集まるかは疑問である。もっと実態を調べてほしい。
  - 地域施設をどうしていくかは、市民一人ひとりの問題であり、自己決定、生活設計である。原則、一人ひとりの個人が結集できる場を用意して検討できるものでなければ無意味である。これまでのワークショップ、アンケートだけでは不足である。
  - 総論 29 ページにあるアンケートの設問内容は、回答結果が見えている。今後の少子高齢社会をどう生き抜いていくか、公共施設の在り方についての民意を確認するべきである。
  - パルテノン多摩の改修問題も、多くの市民の意思を問っていないのが問題である。市と市民の意見交換ができる手法を考えるべきである。市が考える案だけでなく、市民の意見・要望が選択のメニューとして吸い上げられなければならない。
  - 立ち止まって検討するならば、市民ときちんと向き合っていくかを検討すべきである。プログラム全体は非民主的、反民主的である。地域施設がなくなると困る、生活に影響するという人の異論・反論こそ、検証しなければならない。多摩市自治基本条例でいう市民協議に実質なおらず、極めて不十分である。
  - パルテノン多摩は、東京オリンピックの前に工事するのは費用がかかり、タイミングが悪い。この時期を選んで改修するのは荒唐無稽である。パルテノン多摩の改修により多摩センター地区を活性化するとの話だが、三越の撤退という状況すら検討していないのではない。希望的観測をそのまま政策にするのはナンセンスである。改修だけでなく、維持費用もかかる施設を維持し続けることは極めて問題である。
  - パルテノン多摩は多摩市のシンボルというが、何を持ってシンボルというのか。莫大な費用がかかる施設はお荷物と言わざるを得ない。地方自治体が単独で運営するには財政的に無理があり、本来は近隣自治体と連携して保有するべきではないか。行動プログラムは本来、そのような考え方で始まっているべきものなのに、急に改修が決まったのはおかしい。
- ⇒複合施設の今後については、引き続き、市民・団体の皆さんと一緒に考えていきたい。施設の機能はこのままで良いのか、整備手法等をどうするかといったことも大きな検討課題の柱だと考えている。
- ⇒10月29日に開催するパルテノン多摩大規模改修事業説明会では、改修費用約80億円の内容も説明している。これまでの説明会の中では、改修費用が高すぎる、パルテノン多摩の改修よりも庁舎等の建て替えを先にすべきではないか等の意見もいただいた。改修費用の財源についても説明している。是非、説明会にも参加していただきたい。
- ⇒できるだけ多くの方に意見を伺いながら決定していく考えである。本プログラムの更新も、できるだけ多くの方のご意見を伺うために、決定時期をずらした。その点についてはご理解いただきたい。

- 市民と一緒に考えていくとのことだが、どのような手法で検討するのか。なぜ、平成 25 年 11 月に豊ヶ丘複合施設を廃止するとの発想が生まれたのか。試算の結果、約 90 億円不足する、だから財政問題にすれば納得してもらえないのではないかと考えたのではないか。
- パルテノン多摩は財源の見通しがついたと説明していたが、市の財政問題は全く関係がなくなったので、地域図書館は廃止する必要がなくなったと捉えて良いか。
- ⇒図書館は、本館・地域館の機能を再検討する中で、職員配置の課題、資料を購入する予算の課題等、様々な課題があった。教育委員会と調整した結果、図書館本館がないと地域図書館への配本ができないため、図書館本館を中心としてネットワークを構築していく方向で検討している。
- ⇒平成 25 年 11 月の策定時に試算した約 90 億円の不足は、仮に全て取組みを行ったとしても約 30 億円の効果である。残りの約 60 億円をどうするか。ここで立ち止まって見直しをすることにした施設は、その間にも運営費はかかる。策定からこれまでに、大きな状況変化として、施設改修にも都市計画税が充当できるようになった。パルテノン多摩で見込んでいた約 39 億円は一般財源を使わずによくなった。しかし、不足する費用は依然としてあるため、今後も様々な取組みを考えなければならない。
- ⇒パルテノン多摩を「存続」としたのは、コンセッション方式（公共施設等運営権）という、事業運営権を民間に売れば改修費用が賄えるのではないかという考えがあったからである。しかし、パルテノン多摩は市民の利用が多く、運営権を導入すると、学校行事等の施設利用ができなくなってしまう恐れもあることから、方向性を見直した。パルテノン多摩を残すことで、多摩センター地区の集客を呼び、多摩センター活性化の核としたい。
- パルテノン多摩の改修は、都市計画税が充当できるから問題ないというのなら、行動プログラムにおける財政問題もなくなるということか。
- ⇒財政問題は依然としてある。都市計画税は用途が決められている。
- 市トータルの財政問題がありながら、パルテノン多摩は都市計画税を充てられるからよいとする考え方はおかしい。
- 一部の施設だけでなく、プログラム全体にわたって立ち止まっていただきたい。今後、多額の費用がかかる庁舎、図書館本館、パルテノン多摩を、現在のパルテノン多摩の場所に併設すれば、合理的で良いのではないか。
- ⇒パルテノン多摩以外の施設は、都市計画税の充当ができない。用途が決まっている。
- 図書館の問題について、理念や行政的な指針がないから、話がおかしくなり、混乱が起きている。地域の意見をどのように受け止めて対応するかが重要である。たま広報 9 月 20 日号 1 面の特集で「みんなデザインする街」が掲載されているが、みんなとは誰で、市民がデザインする街とは何か。説明の最後に、この他にもたくさんの市民参加がある、ぜひ参加してほしいとあるが、このようなことを宣伝しなければならなくなったのは、行動プログラムの策定に起因している。行政の立場やマニュアルを市民が知らないからこういうことになっているという気持ちの表れである。
- 豊ヶ丘複合施設は年間約 12 万数千人の利用、東寺方複合施設は約 10 万人の利用、計約

23万人の利用がある。パルテノン多摩利用者は約50万人で、市民利用は約半分であり、豊ヶ丘・東寺方複合施設とほぼ同数である。高齢化が進む場所に、図書館や市民施設が必要なことを表している。豊ヶ丘複合施設は立ち止まって考えるとなったことは良かったが、地域住民の生活の基盤であることをしっかり認識してほしい。是非、当事者を中心として定期的な話し合いを早めに始めてほしい。

- 社会教育、文化施設も大事だが、大規模施設を今後も維持していけるかも含めて、住民の意見を聞きながら進めてほしい。大規模施設を改修するから、地域施設を廃止する考え方はおかしい。
  - 地域図書館は、多世代が交流する知的基盤、インフラである。その機能がなくなると、子どもたちが空白の中で育っていくことになる。その現実をしっかり踏まえて考えていただきたい。
  - 図書館は7館体制で素晴らしい体制で継続して続けていくことが望ましいと言われながらも、何故、行動プログラムで地域図書館を廃止とすることになったのかを明らかにしてほしい。
  - 図書館本館は、地域図書館をしっかり支える機能を持った施設になってほしい。約6,000㎡規模の図書館と聞いたが、そんなに大きな図書館は必要ない。豪華な施設を駅前に建設し、地域図書館を縮小して空白にしないでほしい。役割をしっかり踏まえて検討していただきたい。
- ⇒図書館に関するご要望は、図書館所管課にも伝える。図書館のあり方については、基本構想策定委員会で検討しているが、今後も地域の皆さんの意見を伺いながら、取組みを進めていきたい。